

～1人ひとりの感じ方(感性)を育てる時間～

絵の具と画用紙、筆を置いてだけで「どうぞ」と始めました。

筆で画面に塗り始めます。黄色だけを塗り続ける人もいます。

色が混ざり、増えていくのが嬉しいようです。

容器に別の色を注ぎ、紙の上に絵の具を流し始めます。

マール状に混ざる色に目を見張ります。

茶色の絵の具で遊び続けている人は、その色が気に入っています。

床や机のビニールにこぼれた絵の具を触り、はじくのを見ている。

紙に穴が開きそれを見つめています。そこに絵の具の膜が張ります。

紙が汚れても、上から全ての色を流し「にじいろ！」と出会います。

いつもは手にしないペットボトルを手にし、のぞき込みます。

失敗はなく、どんな事も探求につながり、何かに気付いていました。

途中で澱粉のりを出すと、机や手に塗り、紙にこすりつけます。

足の裏にのりを塗り、ペタペタと歩き回ります。音が楽しいのか、

足の感触がおもしろいのかは、本人しかわかりません。

のり、絵の具、ティッシュ、色が混ざり、混沌としています。平和です。

自分で「おわり」を決め「いっぱい遊んだね」と満足そうでした。

大人が制止しなくても、羽目を外すことなく手元に集中していました。

自由な中で、それぞれの興味ある事に没頭していったのでしょう。

大人の声掛けを控えることで、自分なりに感じ、考えていました。

それは無視や放置とは違います。

共感を求めてきた時に応え、振り向いた時に見守る眼差しがある。

その中で安心して、やりたい事に没頭していただけるでしょう。

色の選択、紙の交換、場所、タイミング、などを本人に確認すると

小さい人も意思を持って答えてくれます。

何に興味を持ち、何を楽しむか、何を感じるかは1人ひとり違います。

大人が決めつけずに見守ると、その子の感性が見えてきます。

作品は同じものは無く、1人ひとり違った体験をしたのが伝わります。

上手下手では評価できない、生き生きとした表現を感じます。

